

## (2) 協議事項

### ① 鹿児島市病院事業経営計画（前計画）の総括

#### 評価

- ・平成 27 年 5 月の移転開院により、旧病院時のハード面の課題を解決し、総合診療基盤に基づく高度・専門医療の充実を図った結果、平成 30 年に地域医療支援病院の承認及び DPC 特定病院群の指定、令和 2 年に地域がん診療連携拠点病院（高度型）の指定など、県下の中核的医療機関としての大きな役割を果たしてきた。
- ・一方、患者数や手術件数の増加に伴うスペース不足のほか、新型コロナウイルス感染症の感染拡大など新たな課題が顕在化したことから、第 2 期経営計画においては、将来の医療需要の変化に対応するため、再整備をはじめ、これらの課題解決に向けた取組を進めていく必要がある。

#### 診療実績

- ・入院患者の入退院支援を強化し、効果的・効率的な医療提供を進めてきたことにより、入院患者の在院日数の短縮化が図られ新入院患者数が増加し、さらに、人員体制を強化し、病院経営の基盤となる診療報酬加算の取得等に努めた結果、診療単価は大幅に上昇している。

##### 主な指標の推移

・平均在院日数	(H25 : 15.3 日 ⇒ R3 : 11.4 日)	25.5% 短縮
・新入院患者数	(H25 : 9,916 人 ⇒ R3 : 13,710 人)	38.3% 増加
・入院単価	(H25 : 64,843 円 ⇒ R3 : 89,143 円)	37.5% 上昇
・外来単価	(H25 : 13,467 円 ⇒ R3 : 30,597 円)	127.2% 上昇

#### 経営状況

- ・患者数の増加や診療単価の上昇により収益は増加傾向となり、平成 30 年度及び令和 3 年度は経常収支の黒字化を達成した。
- ・医業収益に占める給与費の割合は当初 60%程度でしたが、近年は 50%程度で推移している。一方、材料費の割合は 30%程度で推移している。

#### その他

- ・救命救急センターの機能充実に努めてきたが、今後も救命救急センター充実段階評価の S 評価取得に向け取り組んでいく必要がある。
- ・平成 30 年度に DPC 特定病院群となってから以降、その中でも高水準の医療を提供している。

令和 4 年度には DPC 標準病院群への指定へ変更となったことから、DPC 特定病院群への再指定に向けて診療密度の改善策などを検討するため、院内プロジェクトチームを発足した。